

# 大気環境中のアスベスト濃度について

## ◆令和5年度の調査結果をお知らせします◆

横浜市では、市域における大気環境中のアスベスト濃度の実態を把握するため、平成18年度からアスベスト濃度調査を実施しています。

平成22年度からは、毎年市内6区6地点で調査を実施しており（※1）、このたび、令和5年度の結果がまとまりましたのでお知らせします。

### 【調査結果】

年間を通じて、各地点の濃度の範囲は、不検出（0.047未満）～0.095本／リットルでした。

大気環境中のアスベストには環境基準はありませんが、WHOの環境保健クライテリア（※2）によると、世界の都市部の一般環境中のアスベスト濃度は、1本～10本／リットル程度であり、この程度であれば健康リスクは検出できないほど低いと記載されておりますので、本市の調査結果についても 問題になるレベルではないと考えています。

令和5年度 一般環境大気中のアスベスト濃度の調査結果(単位:本／リットル)

No.	調査地点	アスベスト濃度(※3)	
		夏季	冬季
		8/17-18	1/18-19
1	中区本牧	不検出 (0.051 未満)	不検出 (0.047 未満)
2	保土ヶ谷区桜丘高校	不検出 (0.051 未満)	不検出 (0.047 未満)
3	磯子区総合庁舎	不検出 (0.051 未満)	0.095
4	港北区総合庁舎	不検出 (0.051 未満)	0.095
5	緑区三保小学校	不検出 (0.051 未満)	0.095
6	泉区総合庁舎	不検出 (0.051 未満)	0.047

(※1) 平成18年度から平成21年度まで、市内18地点（各区1地点ずつ）で調査を行ってきました。平成22年度からは、毎年市内6区6地点を順次調査し、3年間で全区を調査します。

(※2) 環境保健クライテリアとは、世界保健機関（WHO）、国際労働機関（ILO）及び国連環境計画（UNEP）が共同で実施している国際化学物質安全性計画（IPCS）において、化学物質ごとに人の健康に及ぼす影響を総合的に評価して取りまとめたものです。

(※3) アスベストの測定は、期間中の24時間の試料採取によるものです。

[参考]

過去3年間の一般環境大気中の最大アスベスト濃度（単位：本／リットル）

No.	調査地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	中区本牧	不検出 (0.051 未満)	測定なし	測定なし
2	保土ヶ谷区桜丘高校	不検出 (0.051 未満)		
3	磯子区総合庁舎	不検出 (0.051 未満)		
4	港北区総合庁舎	0.094		
5	緑区三保小学校	不検出 (0.051 未満)		
6	泉区総合庁舎	不検出 (0.051 未満)		
7	鶴見区生麦小学校	測定なし	不検出 (0.050 未満)	測定なし
8	西区平沼小学校		0.050	
9	青葉区総合庁舎		不検出 (0.050 未満)	
10	戸塚区汲沢小学校		不検出 (0.050 未満)	
11	栄区上郷小学校		不検出 (0.050 未満)	
12	瀬谷区南瀬谷小学校		0.15	
13	神奈川区総合庁舎	測定なし	測定なし	不検出 (0.046 未満)
14	南区横浜商業高校			不検出 (0.046 未満)
15	港南区野庭中央公園			0.046
16	旭区鶴ヶ峯小学校			不検出 (0.046 未満)
17	金沢区長浜			不検出 (0.046 未満)
18	都筑区総合庁舎			0.14